

当センターの食事をご紹介します

お子さんの年齢や成長・発達に応じて食事の形態や量を選択できます。



常食

食事形態に特別な配慮を必要としないお子さんを対象とした食事です。年齢や体格に応じて量の調節を行います。



五分菜食

消化吸収のよい食材を利用し、軟らかく調理しています。硬いものが食べづらいお子さんを対象とした食事です。



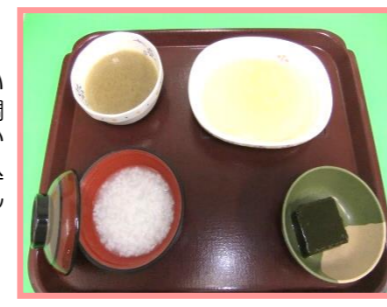
きざみ菜

食材を細かく刻んで軟らかく調理しています。硬いものを噛みづらいお子さん向けの食事です。



すり菜食

消化吸収のよい食材を軟らかく調理し、ミキサーにかけています。飲み込みづらいお子さん向けの食事です。



上記以外に、月齢に合わせた離乳食も提供可能です。

お子さんの成長のため、またご家族の健康のために、日頃から「主食」「主菜」「副菜」をそろえた食事を実践できるといいですね。

また、不足しがちなビタミン、カルシウムの補給のために、乳製品や果物も忘れずに取り入れましょう。



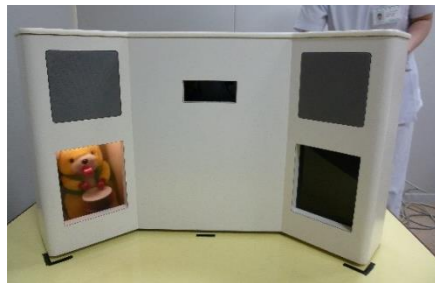
こどもの聴力検査ってどうやるの??

今年、厚生労働省と文部科学省による難聴児の早期支援に向けたプロジェクトが立ち上げられました。当センターでも言語聴覚士や臨床検査技師が聴力検査を行い早期発見に努めています。

今回は当センターで言語聴覚士が実施している聴力検査について一部ご紹介します。

●COR テスト(条件詮索反応聴力検査)

1~2歳の幼児を対象に行う聴覚検査です。左右にスピーカーを設置して、片方のスピーカーから音を出し、幼児がその音の鳴る方向を探す反応(詮索反応)から聴力を調べます。幼児がスピーカーの方向を向いたときに、人形や光で興味を引きながら行うことで検査結果の正確性が高まりますが、両耳一緒に調べるので左右それぞれの耳の聴力値は測れません。



●遊戯聴力検査

3歳以上の児童を対象に行う聴覚検査です。音が聞こえたらおもちゃを動かしたりして、こどもの興味を引きながら行う検査で、ヘッドホンにより片耳ずつ聴力を調べることができます。『音が聞こえたときだけおもちゃで遊べる』ということが学習できれば、2歳前後からでも検査ができます。



ボタンを押すと
電車が走るよ



2019年度 療育研修会報告

第2回 令和元年6月23日(日)

「合理的配慮としてのコミュニケーション支援」

講師：門 眞一郎先生(元京都市児童福祉センター 児童精神科医師)

今回初の試みで嶺南地区、杉田玄白記念公立小浜病院にて開催致しました。門眞一郎先生を講師にお迎えし、午前は「理解コミュニケーション支援」、午後は「表出コミュニケーション支援」について講演して頂きました。99名の方に参加頂き、アンケートでは100%の満足度を得られた結果となりました。実際の視覚支援の方法を動画や写真を通じて紹介して頂き、これからの業務に生かせる内容であり大変充実した研修になりました。(リハビリテーション室 園山)



第3回 令和元年10月27日(日)

「障がいのある児を持つ親の多重課題と支援を考える」

講師：成田 光江先生(福井県立大学 看護福祉学部 准教授)

前半は、育児・介護複合課題を社会に訴え、地域包括連携支援システムを作る活動をされている成田先生に講演して頂きました。その中で、私の課題は地域の課題という考え方、声に出し諦めずに行うことからやってみる事の大切さに共感された方が多かったようです。後半は、ワークショップ形式で話し合いが行われました。「皆、同じ悩みを持っていることがわかり、諦めずに前を見て生きたいと思います。」「話し合いがとても楽しかった。勉強になった。」等の感想がありました。(入所療育課 上島)

第4回 令和元年12月1日(日)

「発達障害児の理解と対応「未就学児編」「学童～思春期編」

講師：平岩 幹男(医学博士)

気になる行動について“発達障害”というレッテルをはらず、目の前の子どもに向き合うための考え方を分かりやすくお話して下さっただけでなく、現場ですぐに実践できる具体的な方法も数多くお話して頂きました。受講者からは「知りたかったことをたくさん知ることができて良かった。今後子どもたちに何をすべきか分かった」「具体的でわかりやすかった」などの感想を頂きました。

(地域支援課 平鍋 香織)